

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年12月）

発表日：2013年2月7日（木）

～C I一致指数が大幅改善。来月分で基調判断は「下げ止まり」へ上方修正の公算大～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

内閣府から公表された2012年12月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+2.5ポイントと上昇した。9ヶ月振りの上昇であり、プラス幅も非常に大きい。採用系列のうち、マイナス寄与になったのは商業販売額（小売業）と商業販売額（卸売業）の2つだけで、残りの8系列はプラス寄与である。特に、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、中小企業出荷指数など、生産・出荷関連指標の押し上げ寄与が大きかった。

先行きの見通しも明るい。12年12月の鉱工業生産は前月比で明確に上昇し、13年1月、2月の予測指数も着実な上昇が見込まれている。C I一致指数に生産関連の系列が多く採用されていることを踏まえると、C Iも先行き上昇が続く可能性が高いだろう。C I一致指数は、12年11月が底だったとみられる。このことは、12年4月に始まった景気後退局面が12年11月で終了し、足元では既に景気回復局面に転じていることを示唆している。

また、12月はC I先行指数も前月差+1.4ポイント上昇した。先行指数は12年9月を底として、均してみれば改善傾向にあると判断される。この点も、先行きの景気が好調に推移する可能性が高いことを示唆する材料の一つである。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「悪化」が維持された。C I一致指数の3ヶ月移動平均前月差はプラスに転じたが、基調判断の上方修正の基準を満たすまでには至らなかった。ただし、3月7日に公表される13年1月分において僅かでも前月差プラスになれば、「下げ止まり」への上方修正の基準を満たすことになる。生産予測指数がプラスであることを踏まえると、上方修正の可能性が高いだろう。

